



〒975-0031
 福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
 TEL:(0244)26-1315
 FAX(0244)26-1318
 E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

「～榎葉町の学校運営協議会の様子を紹介します！～」

「第2回榎葉町学校運営協議会」2/7(金)

榎葉町地域学校協働センター長の猿渡智衛さん(司会)・福島大学の千葉偉才也さん(座長)の下、学校運営協議会が進められました。**事務局からの説明**では、これまでの専門部会(子ども地域活動部会、地域学校安全部会、家庭教育推進部会)における議論、小中学生も参加した教育トーク、地域からの評価の報告がなされ、**次年度に向けた課題**が示されました。

学校運営の基本方針(ビジョン)の説明後、**熟議**を行いながら意見を交換して、その方策を見つけ出しました。

「地域住民による学校評価」の結果・反省から

- ◎ 園や学校は、地域をテーマとした学習活動を展開したり、地域資源を活用したりしている。
- 機会があれば、園や学校の教育活動の様子を**見てみたい!**
- 園や学校が地域に開放され、地域住民が気軽に**訪れやすい環境**になっていないのでは?

学校運営協議会 議題

- (1)学校運営の基本方針についての審議と承認
- (2)教育方針や学校運営に対する協議
- (3)教職員の任用に対する協議



みんなで考える! 「どうしたらよいか」

- お知らせ、毎月発行の町の広報誌に、学校の様子を取り上げてみてはどうか?(保護者)
- 是非3校の活動の様子を掲載しましょう。(園・学校・こども課)
- 見開き2ページの掲載も可能かと思えます。(広報担当)
- 園の保護者も小・中学校の様子が分かると安心するので、3校独自のホームページを1つにまとめてはどうだろうか?(保護者)

地域の方(地域住民による学校評価や協議会参加者、保護者)から「子どもたちの活動の様子や園・学校の様子をもっと知りたい、応援したい」という声が届きました。学校運営協議会で意見交換を行った結果、令和7年度は、①園・学校の取組をよりよい形で発信し、子どもたちの活動の様子や笑顔を家庭や地域に届け、②みんなで防災教育にも力を入れて行こうと決まりました。

コミュニティ・スクール
 (学校運営協議会制度)とは

学校運営協議会を設置している学校のことを「コミュニティ・スクール(CS)」と呼んでいます。学校と地域住民・保護者が力を合わせて「地域とともにある学校づくり」を進める**学校運営の仕組み**です。

学校運営協議会では、校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通じて、育てたい子ども像や目指す学校像などに関する学校運営のビジョンを**共有**します。

学校と地域住民や保護者などが、互いに**当事者として**、協働することにつながります。



園・学校の様子を見られる・訪れやすい環境にするには、より身近な存在にするには…。



「学校運営協議会」で見つけたこと

榎葉町の学校運営協議会は、地域と学校が連携し、協力し合って活動できるように取り組んでいます。その組織の在り方も年々整備され、他の市町村からも注目されています。

また、協議会の熱心な姿勢は、子どもたちの活動にも反映され、彼らの真剣な表情からも読み取ることが出来ます。

<<今回のポイント!>>



紹介 檜葉町地域学校協働センターの取組

教育を通じた地域コミュニティの再生を目的とし、年間を通じて地域の多様な団体と連携・協働し、子どものキャリア形成を推進しています。



1、放課後子ども教室

檜葉小学校の施設を利用して行っています。子どもたちの成長を支える交流の場、学習の場、そして地域の方々と繋がる場として、活動の拠点となっています。

地域の方々の声が学校に届く機会があり、学校の運営にも役立っています。



<壁にいっぱいに掲示されている放課後子ども教室の活動写真>

2、学校運営協議会での熟議の成果（地域・学校・保護者との連携）

<檜葉小・中学校の登下校について> <https://www.town.naraha.lg.jp/admin/cat345/cat3/index.html> 参照

【ならはっ子通信第 33 号(R5.12 月)から】

小中学生の登下校

「令和6年度から、震災前に戻すべく、バスでの登下校が縮小されます。」という記事が載っています。保護者、地域の方の協力を得て、町の課題であった体力の向上にも併せて取り組んでいます。地域の皆さんとのふれあいも生れ、教育効果も高まってきているそうです。

○小学校では、現在徒歩通学エリアとして設定されている 1.5km 圏内は原則バスが通学なくなり、徒歩や送迎

○中学校では、原則バス通学はなくなり、2km 以上徒歩や自転車、送迎

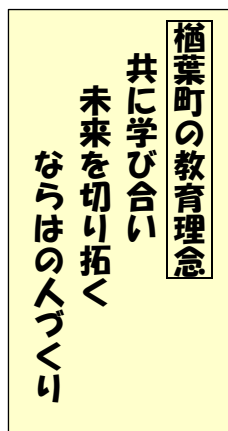
徒歩や自転車で登下校する児童生徒が増えており、安全に子どもたちが登下校できるよう、地域の皆様へ「ながら見守りのボランティアのお願い」を呼びかけています。

【ならはっ子通信第 37 号(R6.4 月)から】

小中学生の登下校 Vol.2

子どもたちの安全・安心な登下校のために、①地域の方への「ながら見守り」の協力と②町内事業者への「安全運転の呼びかけ」をお願いする記事が載っています。

また、地域の方々と共に学んだ防災ウオーク(第 36 号)での「危険箇所の確認」も活かされ、1年間安全に登校できた児童の画像(案内)が載っています。



祝：令和6年度

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰
【優秀賞】 檜葉町地域学校協働センター

